

令和2年度 綾東こども園事業計画

基本理念

子ども一人ひとりを大切にし、保護者から信頼され地域にも愛されるこども園をめざす

教育保育方針 綾東が育てるこども像

- 1 じょうぶな心と体で終わりまで頑張りぬくこども
- 2 思いやりを持ち、ともだちとなかよく遊べるこども
- 3 豊かな感性と創造性を持つこども

○自然の中で、土や水、泥、山などに親しみ、五感を研ぎ体幹を育てる

○友だちとの話し合いや譲り合いを通し、協調性や協働性を育てていく

○与えられた玩具より、自分達であそびを見つけ、創意工夫をこらして発展させる

令和2年度 園児数内訳

クラス	口上林	山家	中上林	奥上林	桜ヶ丘	八田	綾部	中筋	広域	計	入園時期
こねこ 0歳児			1					1		2	内1名 12/1~
ねこ 1歳児	1	1	3				3		1	9	
うさぎ 2歳児	5	3	4	1	1	2	3			19	
いぬ 3歳児		3	2	1			8	1		15	
ぱんだ 4歳児	1	3	4	1		1	2	1		13	
ぞう 5歳児		4	4		3		4			15	
計	7	14	18	3	4	3	20	3	1	73	

	教育標準時間 1号認定	2・3号認定		計
		標準時間	短時間	
こねこ 0歳児		1	1	2
ねこ 1歳児		5	4	9
うさぎ 2歳児		14	5	19
いぬ 3歳児	8	3	4	15
ぱんだ 4歳児	2	9	2	13
ぞう 5歳児	4	6	5	15
計	14	38	21	73

1号認定		8時~16時	8時間
2・3号認定	標準時間	7時~18時	11時間
	短時間	8時~16時	8時間

①あそび(教育と保育)

子どもの発達を見極めながらあそびの環境を整えることで、興味を探究し、集中力や発展させる力を身につけていけるようにする。

・室内環境の充実・自然環境の利用

②園の取組み

* 子どもの育ちを見極めと、保護者支援スキル向上のための、職員研修の導入

* 療育保育 専門性を深め、保護者に寄り添った子育ての応援

* 学校との連携

東綾・上林両小中一貫校との連携を深めるため、ブロック研究会の参加や交流の発信をするなどして充実化を図る

* 地域の方との交流を深める

行事(お泊まり保育・夏まつり・運動会・ハロウィン・カ土と餅つき・発表会など)を通して、地域の方との交流を深め、より地域の園とさせていただけるように計画をする

* 地域子育て支援・学童保育(綾部市委託)

未就園児家庭の支援活動としての「たけのっこくらぶ」は保護者のニーズをとらえた計画実施をめざす

綾部市から委託されている東綾小校区の学童保育は、より地域に密着した活動を取入れて、子どもの成長のための運営を継続していく

③課題

* 新型コロナウイルスの対策

いつまで続くか見当がつかない状態だが、学童を含め子どもと保護者が安心して登園できる環境作りに励む

利用者だけでなく職員の心身の健康も守らなくてはいけないので、今後の状況変化に合わせた臨機応変な対応が大きな課題。

* 若手職員の教育

* 職員のメンタルヘルス

保護者の意見に対し、職員間で園の方針を再確認しながら折り合うラインを模索していかなくてはならない。顧問弁護士という助けはあるものの、職員の心の負担が士気を下げ離職につながらないように、カバーとケアの方法を獲得していく

* 保育教諭確保のための取組み

◎養成校はもとより、高校に下って保育教諭を希望する人材の育成につながるような、企画や営業を展開させていく

◎自然豊かな環境での教育保育をしらない学生が多い(就職フェアなどで学生との会話から)

引き続き養成校と連携し、学生の園体験や保育体験等を企画して、園紹介を兼ねながらより良い保育の現場の理解につなげていく

令和元年度 綾東こども園事業報告

基本理念

子ども一人ひとりを大切にし、保護者から信頼され地域にも愛されるこども園をめざす

保育方針 綾東が育てるこども像

- 1 じょうぶな心と体で終わりまで頑張りぬくこども
- 2 思いやりを持ち、ともだちとなかよく遊べるこども
- 3 豊かな感性と創造性を持つこども

○自然の中で、土や水、泥、山などに親しみ、五感を研ぎ体幹を育てる

○友だちとの話し合いや譲り合いを通し、協調性や協働性を育てていく

○与えられた玩具より、自分達であそびを見つけ、創意工夫をこらして発展させる

① 評価反省

* あそび(教育と保育)

・年間をとおして園外に出て、山や川、田畑にあせ道でよくあそんだ。園児の体力低下の落ち込みが気になるところで、あそびに以前のようなダイナミックさがみられないようにも思う。「つかれた」「しんどい」という言葉が飛び交う中、それぞれの子どもの体力に応じたあそび方をすすめていく。

* 職員研修

・定期的に講師を招き、子どもの成長の見極めや個々に添った対応や保護者対応などアドバイスをいただく。必要に応じて職員の聴き取りやカンファレンスも行ってもらった。来年度も引き続き講師を依頼し、今後テーマに沿った園内研修につなげていきたい。

・キャリアアップ研修など、外部研修に積極的に参加できた。また園内研修においても、例年お願いしている外部講師も招き、身体表現の研修を受けることができた。その成果を日本保育学会に発表し実績に残すことができた。

* 学校との連携

東綾・上林両校とは園小連携の計画に基づきながら交流を深めることができた。

るんびに苑との交流も昨年につづき交流の予定がたっていたが、自粛期間になり中止となってしまった。

* 地域の方との交流を深める

・いこいの村、とくらの家様との関わりや、地域のご近所さんとお付き合い(お庭であそばせてもらう・ハロウィンなど)周囲の皆さんにご協力いただいたり、可愛がっていただいたりして交流をさせてもらった。

夏まつりは、地域の方の参加が少なく残念。招待状を子ども達が配りにまわり、近所の方やとくらの家さんがあそびに来てくださった。

力士のイベントは楽しみにしてくださっている方が多い中、コロナ予防のため中止となってしまった。

* 地域子育て支援・学童保育(綾部市委託)

・地域子育て支援拠点事業「たけのっ子くらぶ」は、他施設の催しと重なることがあり、利用者がすごく多い日と誰も来ない時と極端だった。親子があそびに出かけたり寄りあえたりできる場所作りや、育児の悩み相談など、子育ての応援拠点となるとともに、他園の支援事業とも連携をとっていきたいと思う。

・学童保育は子ども達の自主性ができるように工夫をこらした環境が整えられ、指導員との信頼関係も深まってきている。夏休みのみ利用の子ども達も、学童を利用するのを楽しみにして来ている様子でまとまりが出てきた。

3月から学校が自粛の休みに入り、学童の負担が一気に増えた。家庭で過ごしてくれる児童が多く混乱は招かなかった。

② 課題

* 年度末からのコロナウィルス感染症により、卒入园式の縮小化をはじめ、いろいろな行事が中止や延期に追い込まれている。今後コロナだけでなく感染症とどのような形で共存していくか、また今後においてできる行事や活動を見極めながら、感染予防と子どもの成長の保障を併せて慎重に進めていきたい。

* 若手の育成に焦点をあてた。何年かかけてじっくり育てられるよう、また園内研修などを通して他の職員も共に育ちあえるよう計画中である。

* 人材不足の緩和も踏まえ、地域の元気な高齢者の方に、保育(子育て)のお手伝いや、得意なことやあそびを通して子どもと関わってもらい、または地域の方が気軽に立ち寄れるサロンのような場となるような企画を地区の民生委員さんや地域の方と繋がりながら計画していきたいと思う。